

巨人になる前の小人たちへ

図書館が変わる！
学生の意識・行動が変わる！

大学図書館職員短期職員研修5班

問題提起

- 学生のことを本当にわかっているのか
やる気がない？ 図書館に来ない？
- 学生に危機感が足りないんじゃないか
- 今は独りよがり 内向きになっている
やっていることが認知されていない
- やりっぱなしになっている、学生に効果が出
ているのかわからない

キーワードは「連携」

情報リテラシー教育は大学全体で取り組むべき
→教員、職員と連携し現状の変革を

今回発表は
初年次学生がリテラシー能力を身に着ける
ための具体的な提案を行う

わたしたちの意識を変える！

**恐れず図書館の
外に出よう！
(0勝0敗よい・・・)**

教員・職員の
図書館に対する意識を変える！

**手を取り合って
学生を支える環境づくりを！**

**お互いの問題を一緒に解決できる
win-winの関係を**

連携の結果 図書館はこれができる！

- ニーズ把握
- 授業密着型
適切な時期に実施できるようカリキュラムに入れてもらう
先生と一緒に適切なガイダンスの内容を検討できる
- 認識を共有できる
高等教育のための情報リテラシー基準・活用体系表を
「共通言語」として使用する
活用体系表に基づいた目標の設定を行う
- 全学的な学生のフォロー体制ができる

連携の結果 教職員はこれができる！

- ニーズ把握
- 講義のフォロー
盗用、剽窃など、レポート書き方
- 場所としての図書館活用
広報、会場の提供、
- 大学のPRポイントとしてのメリット
- 全学的な学生のフォロー体制ができる

どのようにして意識を変える？

具体的には

- 教員に「学生向けガイダンス」を見せ体感してもらう
- 新任教員向けにオリエンテーションや
教授会でアピール実演
- キャリア支援室と手を組み、就活向けDB
- 学生相談室と問題を共有
- 先生の研究室に営業に行く
- 他部署との会議に同席し情報共有
- ポスター、チラシ
-

実施後は評価改善を続ける

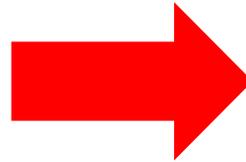
- アンケート結果分析
今は学生だけ。教職員からも採る。
分析に基づいた改善を
- 職員のスキルアップ
自分だけでなく共有。全員の底上げを。
- 持続可能な体制作り

学生の意識が変わる！

自分のリテラシー能力を客観的に把握できる
自分からフォローを求めに来る
学びへの意欲が高まる

● 学生が目指すべき将来像が見える

GIANT



...で？



大学のミッションに貢献する

高等教育のための情報リテラシー基準

- 高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版
- <http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>